
乗客の少なすぎる飛行機は飛ばさないのがエコかもしれない

野鶴善明

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

乗客の少なすぎる飛行機は飛ばさないのがエコかもしれない

【Nコード】

N1239I

【作者名】

野鶴善明

【あらすじ】

航空会社の都合でフライトを変更させられた時、こうすればエコになって地球温暖化防止に役立つんじゃないかなとふと思いついたことを書いた純粋なエッセイ。

僕は今、中国の広東省の省都・広州で働いている。

休みになると飛行機に乗って以前留学していた雲南省の昆明へ遊びに行くのだが、中国のエア・チケット価格の仕組みが興味深い。

定価が決まっていて、広州・昆明間だと片道1260元（約1万6500円）。往復だと2510元（約3万3000円）になる。ちなみに、フライト時間は2時間前後。

ところが、春節（中国の旧正月）などの超ピーク時を除いて、エア・チケットが定価で売られることはほとんどない。日本でも「早割り」といった制度があるが、中国では国内航空便はほとんど割引チケットだ。だいいち、中国の航空会社のホームページでフライトを検索すると、「何月何日、〇〇便、〇〇元、何割引、残数〇席」なんて表示がずらりと出てくる。いちばん安い時期に広州・昆明間のいちばん安い往復チケットを買うと四百数十元（約6000円）だったりする（この場合は、かなり前に予約する必要がある）。つまり、オフピークには値段が五分の一以下にまで下がってしまうのだ。日本ではありえない。日本の航空会社の早割りにしても、いくらなんでも値段が五分の一以下にはならない。中国の国内航空線市場では市場原理が強烈に働いている、ということなのだろう。

ところで、中国の国内線はたまにフライトが取り消しになる。

今年の五月に、僕も実体験させられるはめになってしまった。

五月五日の19時昆明発広州行きを予約していたのだが、当日の朝、航空会社から電話がかかってきて、19時発はフライトが取り消しになったから21時発に乗ってくれと言う。ここは中国。日本みたいないたれりつくせりサービスの便利な国ではない。急ぐわけでもなし、二時間の差だからしょうがないかとあきらめつつ、「それでもさ、なんでフライトが取り消しになったの？」

と訊くと、航空会社の女の子は、

「お客さんが足りないの」

とあっさり言う。日本の航空会社なら申し訳なさそうに丁寧におわびするところだろうけど、彼女は予約を入れた全員に早く連絡しなくてはそのだけが気がかりで焦っている様子だった。

「19時の便のお客さんが少ないから、21時の便にまわすの？」

「違うわ。21時の便が少なすぎるから、19時の便のお客さんに21時の便に乗ってもらうのよ。出発の1時間前には空港へきてください。それでは」

彼女はせきこむように言って急いで電話を切ってしまった。

素直で正直な言い訳だなあ、と僕は妙に感心してしまった。嘘をついている訳ではなさそうだから、許すか。

21時発に乗ってなかを見回すと、乗客は定員の6割ぐらいだった。ふた便あわせてこの数だから、19時発も21時発も両方ともけっこう採算割れなんだろうなとその点は納得した。例年ならメーデー休暇前後のこの時期は観光シーズンで需要がけっこうあるはずなのに、今年はフライトが取り消しになるほど乗客が少なすぎる。その点からも、金融危機の影響を受けた中国の景気の悪さがみて取れた。経済統計には表れない実感だ。

それにしても、不採算だから飛ばさないという航空会社の意地はある意味すごいなと、おそれいった。日本では乗客が少なすぎるからといって、当日の朝に航空便を間引いたりはしないし、できない。そんな話は聞いたことがない。

「割引しまくってさんざん競争して、おまけに超不採算の便まで飛ばさせられたらたまらないよ。こっちはコストを削って利益を出さなきゃいけないんだ。乗客の少なすぎる便は飛ばさなくて当然。なにが悪いんだね」

もし航空会社に本音を聞いたら、こんなところになるのではないだろうか。

機内食を食べた後で少々眠くなり、なんにも見えない夜の空を眺めながら、

——遅れたのはしょうがないとして、フライトが一本減ったおかげで余分なCO₂を出さずにすんだわけか。

と僕はぼんやり考えた。

地球の温度が上がるのをほんのちょっぴりだけど防ぐことができた。航空会社の採算の都合でいきなり便を変更させられていささか割り切れない気分だったけど、これでよかったことにしよう。そう思うことにした。

この振り替え輸送方式を航空会社のコストのためではなく、地球温暖化防止の点から発想して取り入れてみたらどうだろう。

乗客の少なすぎるフライトで、飛ばさずにすむことができる便なら、当日の様子を見ながらほかの便に振り替えたりして飛行機を飛ばさないのがエコかもしれない。少し不便だけど、そこは少しだけ融通しあって、みんなで余分なCO₂を少しずつ削り、航空会社は浮いたコストの分を乗客に還元すればいい。そんなコンセンサスと仕組みができればいいのだけれど。日本でも、中国でも、ほかの国でも。

地球がめっちゃくちゃにならずにすむのなら、少しくらいの不便はすぐに慣れるから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1239i/>

乗客の少なすぎる飛行機は飛ばさないのがエコかもしれない

2010年10月19日02時06分発行